

令和 5 年 4 月 14 日現在

機関番号：42632

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K14458

研究課題名（和文）自閉症スペクトラム障害児の対人関係基盤型QOL（SI-QOL）向上に関する研究

研究課題名（英文）Research on improvement of interpersonal relationship-based QOL (SI-QOL) for children with autism spectrum disorder

研究代表者

渡邊 孝継（Watanabe, Takatsugu）

星美学園短期大学・幼児保育学科・准教授

研究者番号：00769466

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：本報告書では、他者とのコミュニケーションが困難とされている自閉症スペクトラム障害（以下、ASD）児が、他者と円滑なコミュニケーションを行うための条件を検討した。そして、その条件を組み込んだコミュニケーション支援プログラムを開発した。このプログラムは、ASD児が他者と関わることで感じる幸福感を増加させる効果があった。このプログラムは、簡便なプログラムであることから、教育場面や家庭場面での応用可能性が示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、日常生活場面において、ASD児の保護者と円滑に関わるための条件と、保護者の「ASD児の保護者との円滑に関わり」を引き出す条件の検討を行い、の条件を組み込んだコミュニケーション支援技法のASD児の幸福度に与える影響を明らかにしたことが学術的意義である。そして、のコミュニケーション支援技法をASD児に実施することで、ASD児の他者と関わることの幸福感が増加することが社会的意義である。

研究成果の概要（英文）：In this report, we examined the required conditions for smooth communication for children with autism spectrum disorder (ASD), who are said to have difficulty communicating with others. We subsequently developed a communication support program to incorporate these conditions and allowed the program to increase the happiness felt by children with ASD when interacting with others. Since this program is simple, the applicability in educational and home settings is also demonstrated.

研究分野：応用行動分析

キーワード：自閉症スペクトラム障害児 対人関係 QOL コミュニケーション 保護者

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究の開始時、自閉スペクトラム症(以下、ASD)児と他者との間で取り交わされるコミュニケーションの過程で、どのような変数(第一義的要因)が働くことで対人関係を基盤としたQOL(SI-QOL: Social Interaction related QOL)が向上するのかは不明であった。SI-QOLとは、人と円滑に関わることで高まる満足感や幸福感である。

ASD児は他者の気持ちの理解が困難であり、他者とのコミュニケーションが成立しにくい。他者とのコミュニケーションが不成立に終わると、人との関わりに回避的になり、不登校や引きこもりになりやすくなってしまふ。これらを防ぐために、ASD児のコミュニケーション支援技法が求められてきた。これまでASD児のコミュニケーション支援技法は開発が進められているが、対人関係を基盤としたSI-QOLの視点を持ったコミュニケーション支援技法は存在しなかった。たとえ、ASD児の他者とのコミュニケーションが促進されたとしても、ASD児のSI-QOLが向上しなければ、当事者であるASD児の利益につながらないだろう。そのため、ASD児が他者とのコミュニケーション自体を楽しむことができる条件を組み込んだコミュニケーション支援技法を開発し、ASD児の不登校や引きこもりを防ぐことは喫緊の課題であった。また、コミュニケーション支援技法を実践する保護者側の負担が大きい場合、支援は継続されないことがわかっている。そのため保護者側の分析も必須であるが、保護者の行動も含めて検討した研究は、要求言語のように単純な行動に限られており、コミュニケーションのように複雑な行動においては未検討であった。

2. 研究の目的

以上のことから、ASD児とその保護者との間で取り交わされるコミュニケーションの過程の分析により、SI-QOLを向上させる変数を明らかにし、保護者に負担を強くないコミュニケーション支援技法を開発することを目的とした。そのために、ASD児の保護者の対人刺激を手がかりとした社会的行動が維持・強化される条件の検討と保護者の「ASD児の対人刺激を手がかりとした社会的行動を強化する行動」が維持・強化される条件の検討、とで明らかになった条件を組み込んだコミュニケーション支援技法の効果の検証を行った。

なお、当初は3年間で本研究を実施する計画であった。しかし、新型コロナウイルス感染症対策のため、補助事業期間延長の承認を受けた上、4年間で研究を実施した。

3. 研究の方法

(1) 研究の計画

本研究では、第1研究から第3研究までの3つの下位研究を計画した。第1研究は、ASD児の保護者の対人刺激を手がかりとした社会的行動が維持・強化される条件の検討を行った。第2研究は、保護者の「ASD児の対人刺激を手がかりとした社会的行動を強化する行動」が維持・強化される条件の検討を行った。第3研究は、とで明らかになった条件を組み込んだコミュニケーション支援技法の効果の検証を行った。

(2) 第1研究の概要

第1研究は、「ASD児の対人刺激を手がかりとした社会的行動が維持・強化される条件の検討」であった。第1研究では、ASD児の社会的行動の生起を支えている保護者の行動を明らかにすることを目的とした。この目的を達成するために、ある大学の臨床発達セッションに参加している小学3年生の男児2名(以下、対象児)の保護者を対象に研究を実施した。対象児は2名とも医療機関でASDと診断されており、対人コミュニケーションや自己制御が主訴とされていた。大学の面接室において、半構造化面接を用いて、保護者から対象児の他者とのコミュニケーション場面について聴取を行った。先行研究のレビューから抽出された社会的行動のうち、「よく確認される」と保護者が判断した社会的行動(計24個)の先行事象と後続事象について聴取を行った。

(3) 第2研究の概要

第2研究は、「保護者の「ASD児の対人刺激を手がかりとした社会的行動を強化する行動」が維持・強化される条件の検討」であった。第2研究では、ASD児の社会的行動の生起を支えている保護者の行動がどのような条件で生起するかを明らかにすることを目的とした。この目的を達成するために、第1研究における保護者を対象として大学の面接室にて、対象児と他者とのコミュニケーション場面について半構造化面接を用いた聴取を行った。第1研究で聴取を行った対象児の社会的行動の先行事象である保護者の行動の先行事象と後続事象について聴取を行った。

(4) 第3研究の概要

第3研究は、「とで明らかになった条件を組み込んだコミュニケーション支援技法の効果の検証」であった。第3研究では、ASD児の興味関心のあるテーマについて会話を行うことで、ASD児のSI-QOLを向上させることを目的とした。第3研究では、対象児を対象として研究を実施した。対象児は、大学の実験室で、本人の興味関心のあるテーマを用いてスタッフと会話をすることが求められた。基本的に、対象児の発話に対して、肯定的な応答を行うスタッフと

の会話を反復実施する介入を実施した。SI-QOL の評価には、児童の QOL を測定する尺度の日本語版の Kid-KINDLR (柴田・根本・松寄・田中・川口・神田・古荘・奥山・飯倉, 2003) を使用した。Kid-KINDLR は、身体的健康, 情動的 well-being, 自尊感情, 家族, 友だち, 学校生活の 6 領域について各 4 項目ずつ合計 24 項目から構成された。そして, 第 3 研究実施前後における対象児と保護者の得点の差を分析した。

4. 研究成果

第 1 研究より, 他者とのコミュニケーション場面において対象児が自発している社会的行動の先行事象と後続事象が明らかになった。先行事象は, 他者の言語刺激や身体動作であり, 後続事象は他者の応答や自分の選好の活動であることが示された。このことから, ASD 児の保護者の対人刺激を手がかりとした社会的行動が維持・強化される条件を検討することができた。第 2 研究より, 対象児の保護者が ASD 児の社会的行動を引き出す行動と維持している行動の先行事象と後続事象が明らかになった。ASD 児の社会的行動を引き出す保護者の行動の先行事象は, 家族の困っている様子や対象児の援助要請であり, 後続事象は対象児の家族へ貢献する行動や対象児とのコミュニケーションであることが示された。このことから, 保護者の「ASD 児の対人刺激を手がかりとした社会的行動を強化する行動」が維持・強化される条件を検討することができた。第 3 研究より, ASD 児の選好のテーマについて会話をを行うことで, ASD 児の SI-QOL が向上することが明らかになった。他者とのコミュニケーション場面で, ASD 児の選好のテーマについて会話をを行うことにより, ASD 児と他者のコミュニケーションが成立し, 関係性も深まり, 幸福感・満足が高まると考えられた。

以上のことから, 本研究では, ASD 児の保護者の対人刺激を手がかりとした社会的行動が維持・強化される条件, 保護者の「ASD 児の対人刺激を手がかりとした社会的行動を強化する行動」が維持・強化される条件, と で明らかになった条件を組み込んだコミュニケーション支援技法を実施することで, ASD 児の SI-QOL が向上することを明らかにした。このことから, ASD 児と他者とのコミュニケーションの過程を分析することで, 対人関係を基盤とした QOL を向上させる変数を特定することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者には下線)

【雑誌論文】

Watanabe, T., Attention getting Behavior Acquisition from Others' Speech in children with Autism Spectrum Disorders, The Academic Pilgrimage to Sustainable Social Development, 査読無, 3, 2020, 153-168

豊田真季・須藤邦彦・渡邊孝継・金谷裕香・大石幸二, 自閉スペクトラム症児の他者感情推測促進に関する応用行動分析的介入: “情動的実行機能(Hot EF)”に着目した社会的情報処理改善プログラムの検討(最終報告), 発達科学研究教育センター紀要 34 巻, Pp.71-82 (発達科学研究教育センター)

渡邊孝継, 保育者養成課程の大学生を対象としたスタッフトレーニングの効果 - 子どもと保護者との活動プログラムへの参加を通して -, 星美学園短期大学日伊総合研究所報, 査読無, 17, 2021, 8-11

渡邊孝継, 自閉スペクトラム症児における社会的コミュニケーションの促進 - 視線・表情理解に関する治療的アプローチを通して -, 星美学園短期大学日伊総合研究所報, 査読無, 19, 2023, 12-15

渡邊孝継, 自閉スペクトラム症児の持続的な視覚的注意に関する研究 - 対人コミュニケーション場面における他者の表情への注視時間の増加 -, 星美学園短期大学日伊総合研究所報, 査読無, 19, 2023, 16-17

【学会発表】

渡邊孝継・豊田真季・竹森亜美・大石幸二, 自閉スペクトラム症児の分配行動に関する研究 - 対人葛藤場面における分配行動の種類増加 -, 日本特殊教育学会第 57 回大会 (広島大学), 2019 年 9 月

渡邊孝継, 自閉スペクトラム症児の社会的行動の維持・強化条件の検討 - 保護者からの日常生活場面の聴取結果を通して -, 日本特殊教育学会第 58 回大会 (福岡国際会議場; オンライン開催), 2020 年 9 月 19-21 日

豊田真季・須藤邦彦・渡邊孝継・金谷裕香・大石幸二, 自閉スペクトラム症児の他者感情推測促進に関する応用行動分析的介入 - “情動的実行機能(Hot EF)”に着目した社会的情報処理改善プログラムの検討 -, 日本特殊教育学会第 58 回大会 (福岡国際会議場; オンライン開催), 2020 年 9 月 19-21 日

渡邊孝継・竹森亜美・坂本真季・和田恵・木下愛・荻野梨紗子・大石幸二, 自閉スペクトラム症 (ASD) 児の会話能力の促進 - タイプ・トークン比による「他者に伝わりやすい説明」の検討 -, 日本人間関係学会第 29 回大会 (聖カタリナ大学; オンライン開催), 2022 年 2 月 12 日

渡邊孝継, 自閉スペクトラム症児の社会的行動の維持・強化条件の検討-保護者からの日常生活場面の聴取結果を通して-日本特殊教育学会第 59 回大会(筑波大学), 2021 年 9 月 18-20 日

渡邊孝継・竹森亜美・坂本真季・和田恵・木下愛・佐藤亜美・荻野梨紗子・佐々木水穂・濱田佳那・大石幸二, 自閉スペクトラム症児の社会的行動を促進する要因の検討 構造化面接を用いた母親からの日常生活場面に関する聴取を通して, 日本特殊教育学会第 60 回大会(つくば国際会議場), 2022 年 9 月 17-19 日

大石幸二・竹森亜美・渡邊孝継・坂本真季・和田恵・木下愛・佐藤亜美・荻野梨紗子・佐々木水穂・濱田佳那, 高機能自閉スペクトラム症児における運動制御の促進 - 動作模倣課題における疲労感・困難感の主観的評定値の確認 -, 日本特殊教育学会第 60 回大会(つくば国際会議場), 2022 年 9 月 17-19 日

【図書】

標準公認心理師養成テキスト

編著者：大石幸二・池田健・太田研・大林裕司

執筆者：朝倉新，池田健，大石幸二，太田研，大橋智，大林裕司，財津康司，下山真衣，玉澤知恵美，中内麻美，成瀬雄一，羽澄恵，平野貴大，米山直樹，渡邊孝継，坂本真季，竹森亜美，和田恵

第 1 章 4-1 ~ 5-4，第 5 章 1-7 ~ 1-10，2-1，4-3 ~ 5，pp.24-38，pp.168-174，pp.176，pp.202-206.

文光堂

(全 376 頁)

2022 年 6 月

ISBN 978-4-8306-3630-1

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 渡邊孝継	4. 巻 17
2. 論文標題 保育者養成課程の大学生を対象としたスタッフトレーニングの効果 - 子どもと保護者との活動プログラムへの参加を通して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 星美学園短期大学日伊総合研究所報	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 豊田真季・須藤邦彦・渡邊孝継・金谷 裕香・大石幸二	4. 巻 34
2. 論文標題 自閉スペクトラム症児の他者感情推測促進に関する応用行動分析的介入：“情動的実行機能(Hot EF)”に着目した社会的情報処理改善プログラムの検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発達研究：発達科学研究教育センター紀要	6. 最初と最後の頁 71-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takatsugu Watanabe	4. 巻 3
2. 論文標題 Attention-seeking Behavior Acquisition from Others' Speech in Children with Autism Spectrum Disorders	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Academic Pilgrimage to Sustainable Social Development	6. 最初と最後の頁 153-168
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊孝継	4. 巻 19
2. 論文標題 自閉スペクトラム症児における社会的コミュニケーションの促進 - 視線・表情理解に関する治療的アプローチを通して -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 星美学園短期大学日伊総合研究所報	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊孝継	4. 巻 19
2. 論文標題 自閉スペクトラム症児の持続的な視覚的注意に関する研究 - 対人コミュニケーション場面における他者の表情への注視時間の増加 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 星美学園短期大学日伊総合研究所報	6. 最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 渡邊孝継
2. 発表標題 保育者養成課程の大学生の応用行動分析の知識の促進 - 子どもとの集団活動場面におけるスタッフトレーニングの効果 -
3. 学会等名 日本特殊教育学会第59回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡邊孝継・竹森亜美・坂本真季・和田恵 ・木下愛・荻野梨紗子・大石幸二
2. 発表標題 自閉スペクトラム症 (ASD) 児の会話能力の促進 - タイプ・トークン比による「他者に伝わりやすい説明」の検討 -
3. 学会等名 日本人間関係学会第29回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡邊孝継
2. 発表標題 自閉スペクトラム症児の社会的行動の維持・強化条件の検討-保護者からの日常生活場面の聴取結果を通して-
3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 豊田真季・須藤邦彦・渡邊孝継・金谷 裕香・大石幸二
2. 発表標題 「自閉スペクトラム症児の他者感情推測促進に関する応用行動分析的介入- “情動的実行機能(Hot EF)” に着目した社会的情報処理改善プログラム-」
3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡邊孝継・豊田真季・竹森亜美・大石幸二
2. 発表標題 自閉スペクトラム症児の分配行動に関する研究-対人葛藤場面における分配行動の種類増加-
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊孝継・竹森亜美・坂本真季・和田恵・木下愛・佐藤亜美・荻野梨紗子・佐々木水穂・瀧田佳那・大石幸二
2. 発表標題 自閉スペクトラム症児の社会的行動を促進する要因の検討 構造化面接を用いた母親からの日常生活場面に関する聴取を通して
3. 学会等名 日本特殊教育学会第60回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大石幸二・竹森亜美・渡邊孝継・坂本真季・和田恵・木下愛・佐藤亜美・荻野梨紗子・佐々木水穂・瀧田佳那
2. 発表標題 高機能自閉スペクトラム症児における運動制御の促進 - 動作模倣課題における疲労感・困難感の主観的評定値の確認 -
3. 学会等名 日本特殊教育学会第60回大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 池田健・大石幸二・太田研・大橋智・大林裕司・下山真衣・玉澤智恵美・中内麻美・成瀬雄一・羽澄恵・平野貴大・米山直樹・渡邊孝継	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 496
3. 書名 標準公認心理師試験対策問題集2020	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------